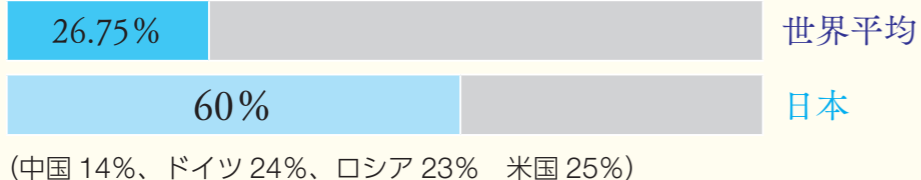


Q. あなたにとって気候変動対策はどのようなものですか？

a. 多くの場合、生活の質を脅かすものである

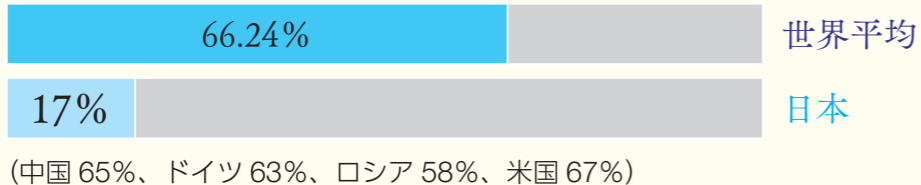


温暖化対策を  
ポジティブに  
捉える日本人は  
少数派



意識改革が  
求められています

b. 多くの場合、生活の質を高めるものである

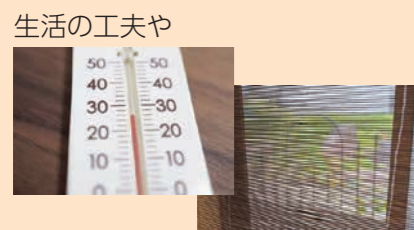


■ はい ■ いいえ

出典) 世界市民会議 (World Wide Views on Climate and Energy) 2015年6月実施

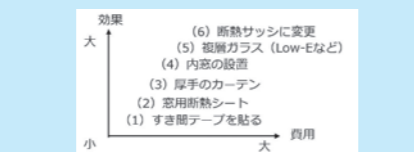
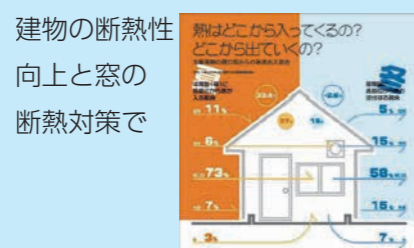
温暖化対策は生活の質の向上につながります！  
特設サイトを公開中です！

熱中症対策



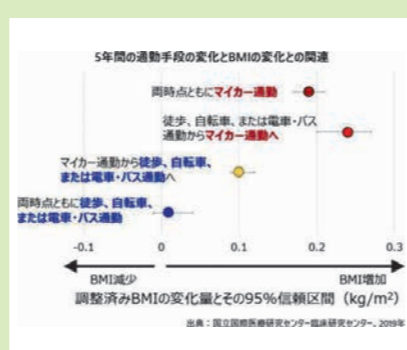
省エネで快適なくらしを

ヒートショック対策



エネルギー消費量や有病率・  
死亡リスクを軽減

メタボ対策



マイカー移動を控え、移動手段を  
見直すことでCO<sub>2</sub>と肥満を原因と  
する血管性病変リスクを軽減



CARBON NEUTRALITY  
カーボンニュートラル  
脱炭素なくらしを目指して

カーボンニュートラル(脱炭素)とは、二酸化炭素をはじめとする温室効果ガス排出量から、海や森林などによる吸収量を差し引いた合計を実質的にゼロにすることです。2021年5月、地球温暖化対策推進法の一部改正において「2050年カーボンニュートラル」が基本理念として位置付けられ、不変的な目標となりました。



スマートフォンからもアクセス可能！

左の二次元コードまたは下記URLからアクセスしてください。

<https://www.kannet-sai.org/qualityoflife/>

令和3年10月発行

埼玉県地球温暖化防止活動推進センター / 認定特定非営利活動法人環境ネットワーク埼玉

〒330-0074 さいたま市浦和区北浦和5-6-5 埼玉県浦和合同庁舎3階

TEL: 048-749-1217 FAX: 048-749-1218 E-Mail: info@kannet-sai.org

ホームページ <http://www.kannet-sai.org/>

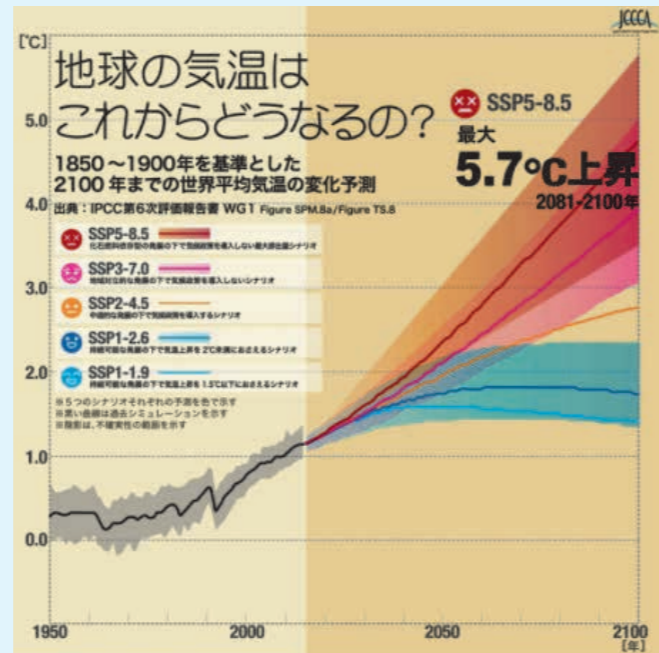
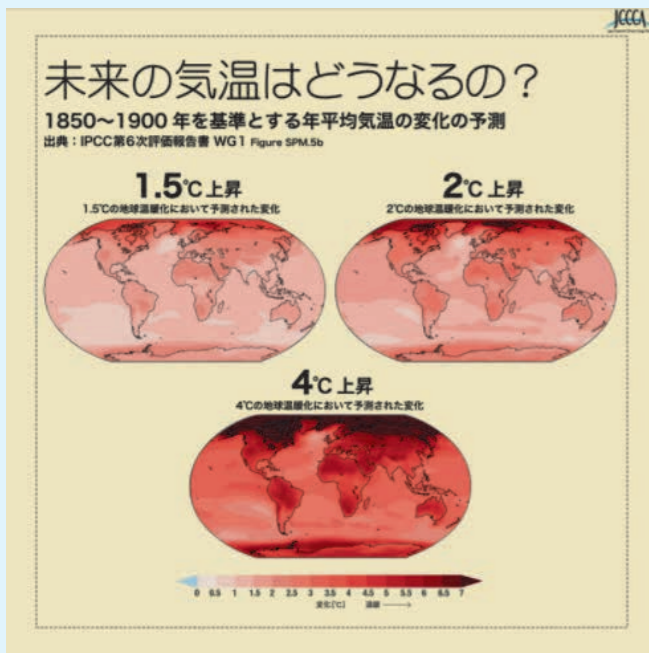


# 1.5°Cが未来を決める

2015年に採択されたパリ協定では、世界の平均気温上昇を産業革命以前に比べて2°Cより十分低く保ち、1.5°Cに抑える努力をする。そしてできるかぎり早く世界の温室効果ガス排出量をピークアウトし、21世紀後半には、温室効果ガス排出量を実質ゼロにする約束しました。

その後発表されたIPCC\*「1.5°C特別報告書」では、1.5°C上昇であっても、健康、生計、食糧安全保障、水供給、経済成長などに対する気候関連リスクが増加し、2°C上昇ではさらにリスクが増加すると警鐘をならしました。そして、1.5°C上昇に留めるためには、2050年までに純排出量をゼロにすることが必要と報告をしています。それを受けて日本でも、気温上昇を1.5°Cに抑えるために、2050年までにカーボンゼロを目指します。

また、2021年8月に公表されたIPCC第6次評価報告書(第1作業部会)では、人間活動が気候システムを温暖化させてきたことに疑う余地がないと断定しました。世界の平均気温は工業化以前と比べて直近10年で1.09°C上昇、過去最も温暖だった数百年間の推定気温と比べても前例のない気温上昇となっています。人間活動の影響が、熱波と干ばつの同時発生から火災の発生しやすい高温、乾燥、強風等の気象条件を引き起こす「複合的な極端現象」の発生確率を高めています。



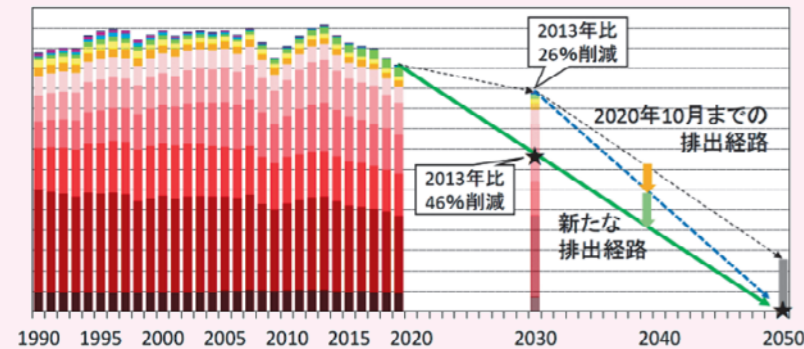
出典)全国地球温暖化防止活動推進センター

出典)全国地球温暖化防止活動推進センター

\*IPCCとは…気候変動に関する政府間パネル(Intergovernmental Panel on Climate Change)。1988年に国連環境計画と国連世界気象機関が共同で設立した国連の組織。195か国が参加し、地球温暖化に関する最新の科学的知見の集約と評価を行い、数年おきに報告書を作成する。

# 日本の温室効果ガス削減目標

日本では、2050年カーボンニュートラルを達成するため、2030年に温室効果ガス削減目標を46% (2013年比) としました。



部門別にみた場合、家庭部門では7割近く削減する必要があり、国民がこれに全力で取り組むことが必要です。

## 部門別CO<sub>2</sub>排出量削減割合

部門	2013年度排出量実績	2030年削減目標割合
産業部門	463	37%
業務その他部門	238	50%
家庭部門	208	66%
運輸部門	224	38%
エネルギー転換部門	106	43%

単位：百万t-CO<sub>2</sub>

出典)環境省地球温暖化対策計画より作成

# 気候変動の影響

写真提供)全国地球温暖化防止活動推進センター、埼玉県環境科学国際センター

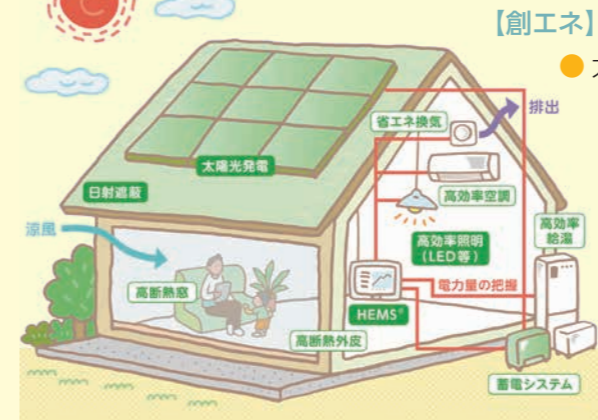


# 脱炭素な暮らしとは…?

なるべく省エネ等で現在のエネルギー消費を抑え、CO<sub>2</sub>を排出しない再生可能エネルギー等を導入!

## 【省エネ】

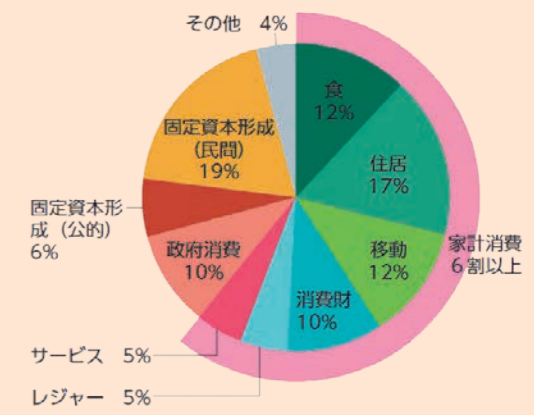
- 建物の高断熱化  
特に窓は、夏73%の熱が外から入り、冬58%の熱が外へ逃げていきます。窓を高断熱化すると省エネに効果的です。
- 高効率な省エネ家電を導入



出典：資源エネルギー庁HP「省エネポータルサイト」を参考に作成

# 消費行動を見直す ライフスタイルの転換

消費ベース(カーボンフットプリント)から見た我が国の温室効果ガス排出量



出典)環境省令和3年度環境白書より

温室効果ガス排出の6割以上が日々の暮らしから出ています。脱炭素な暮らしの実現には、ライフスタイルの転換がポイントです。

例えば…!

再生可能エネルギー100%の電気契約に変える

脱炭素型の製品・サービスを選択する

**カーボンフットプリント**：商品やサービスのライフサイクル全体を通して排出されるCO<sub>2</sub>排出量を表示した仕組み

公共交通機関を利用する

EVカーを選択  
エコドライブを実践

食品ロスを減らす

持続可能なファッションを取り入れる

**COOLBIZ**  
**WARMBIZ**

気候に合わせた服装と適切な室温設定

その他のアクション、詳しくは、  
ゼロカーボンアクション30

検索